

令和 2 年度微小粒子状物質合同調査報告書の作成（案）

1 報告書の構成

全体構成は前年度報告書をベースとした上で、以下の点を考慮する。

- ・第 4 章「年間の PM2.5 高濃度発生状況」の「高濃度事象の詳細解析」については、複数地域で PM2.5 日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超過した事象の中から 2 事例または 1 事例とする。選定基準は「複数地域で PM2.5 日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超過した事象」とするが、この基準のみにこだわらず、状況に応じて判断する。

2 執筆分担

本 編		R3		R2	R1	H30
		主担当	副担当			
1 章 はじめに		埼玉県	神奈川県	東京都	栃木県	長野県
2 章 調査方法		埼玉県	神奈川県	東京都	栃木県	長野県
3 章	各季節の気象概況	相模原市	茨城県	相模原市	相模原市	相模原市
	3.1 春季	栃木県	浜松市	栃木県	東京都	東京都
	3.2 夏季	川崎市	東京都	埼玉県	埼玉県	埼玉県
	3.3 秋季	長野県	川崎市	長野県	長野県	川崎市
	3.4 冬季	静岡県	長野県	静岡県	静岡県	静岡県
	3.5 四季の比較	浜松市	静岡県	浜松市	浜松市	浜松市
4 章	4.1 高濃度日出現状況	茨城県	神奈川県	茨城県	茨城県	茨城県
	4.2 事例 1	横浜市	栃木県	横浜市	千葉市	横浜市
	4.3 事例 2	千葉市		千葉市	群馬県	栃木県
5 章 発生源寄与の推定		さいたま市 山梨県 千葉県		山梨県 千葉県 さいたま市	千葉県 山梨県 さいたま市	さいたま市 山梨県 千葉県
6 章 総括		埼玉県	神奈川県	東京都	栃木県	長野県

資料編	R3	R2	R1	H30
1 試料採取要領	埼玉県	東京都	栃木県	長野県
2 測定方法及び検出下限・定量下限	静岡市	静岡市	静岡市	静岡市
3 調査地点の概況	埼玉県	東京都	栃木県	長野県
4 気象要素の測定地点	相模原市	相模原市	相模原市	相模原市
5 高濃度事象解析の対象地点	茨城県	茨城県	茨城県	茨城県
6 精度管理結果	東京都	栃木県	長野県	群馬県
7 調査結果の発表及び投稿一覧	埼玉県	東京都	栃木県	長野県

光化学オキシダント調査事業	R3	R2	
		主担当	副担当
解析調査	群馬県、神奈川県 東京都	群馬県、神奈川県 千葉市、川崎市	

3 報告書作成上の検討事項

- (1) 解析対象地点の選定（前年度と同様の方法，別冊参照）
 - ・成分調査結果解析の対象地点（3章及び5章）及び高濃度事象詳細解析の対象地点（4章）は、ともに一般局とする。
 - ・成分調査結果解析の対象地点は、都県分は全地点、政令市分は1地点選定する。
 - ・高濃度事象詳細解析の対象地点は、以下の方法で選定する。
 - ① 成分調査地点を含む5～20地点とする。
 - ② 極端な空間的偏りがないようにする。
 - ③ 政令市については、各県で取りまとめる。
- (2) 二重測定の評定基準を超過した測定値の扱い
 - ・平成29年度PM2.5成分測定結果の環境省への報告において、二重測定の評定基準を超過した測定値は、欠測とせず、フラグ付きで測定値をそのまま報告することになった。
 - ・平成30年度報告書作成にあたり、当該フラグ付き測定値の扱い（有効、欠測）について、原則としてフラグ付のまま有効とするとのことであった。以降、同様に扱うこととしてきた。令和2年度報告書についても、前年度と同様とする。
- (3) 高濃度事象詳細解析の対象期間の評定方法
前年度と同様に「4.1 高濃度日出現状況」担当自治体及び幹事県で案を作成し、各自治体に照会して評定する。
- (4) 成分調査結果解析の対象期間について
前年度と同様に全期間（14日間）を対象とする。

4 執筆要領

- (1) 基本的に従前どおりとする。
- (2) 原則として Microsoft Word で執筆する。
- (3) ページ設定（A4用紙）
 - ・文字数：40文字40行
 - ・余白：上下左右とも30mm
- (4) フォント
 - ・章の表題（12ポイント MS ゴシック）
 - ・節・項の表題（11ポイント MS ゴシック）
 - ・本文（10.5ポイント、MS 明朝、ただし英数字は Times New Roman）
 - ・図表中のフォント（MSP ゴシック、印刷時に文字が小さくなりすぎないように留意）
 - ・マイクロ（μ）はマイクロと入力し、変換した“μ”を Times New Roman にしたものを使用する。
 - ・「%」については Times New Roman を使用する。
- (5) 図表番号
章-節-通し番号の3桁で表記する。（例：図 4-1-1）
- (6) 日付の表記
本文中の年（暦年及び年度）は和暦、月日は「○月○日」と表記する。ただし、図表中の年月日は必要に応じて変更可能とする（例：○月○日→○／○）。
- (7) その他
 - ・定義が必要な用語については、議論の上で、原則として統一の表記を使用する。
 - ・カラー原稿で可

- ・ カッコは全角を基本とする。(カッコ)
- ・ 数値と単位（%は除く）の間に半角スペースを入れる。（例：35 ng/m³）
- ・ 引用文献は、「引用文献¹⁾」のように表記する。
- ・ NMHC のグラフは[ppmC]単位で表記する。[0.1ppmC]ではない。
- ・ グラフのプロットは小さすぎないよう工夫する。

5 データ・原稿等の提出・共有方法

- ・ 調査報告書の執筆に用いるデータの収集と配付については、資料4を参照。
- ・ 中間報告や調査報告書の原稿は、データの収集（資料4参照）と同様に専用ホームページへアップロードすることで提出する。（アップロードできない場合は事務局へ連絡し、事務局へメールで送付する。）